

9-2 トイレ（小 便 器）

(1) 手 順

手順①：資機材準備	 <p>便器清掃は衛生に気を付けて作業を進めていきましょう。</p>
手順②：洗浄の準備	
手順③：洗浄	
手順④：拭き上げ、点検	
手順⑤：報告	

(2) 小便器清掃での約束

約束①：便器清掃用の資機材を使用する。
約束②：衛生面に注意して作業する（手袋・マスクの着用）。

(3) 用意するもの

			
システムバケツ 1セット	ピンクのゴム手袋 1双	しろ白パッド 1枚	さぎょうひょうじ ぼん 作業表示板 1枚
			
シューズブラシ 1つ	ピンクタオル 1枚	あお青タオル 1枚	しろ白タオル 1枚
			
			ようせんざい ほん M用洗剤 1本

便器の清掃では、**ピンクのゴム手袋**を着用します。便器の中から汚水がはねることもあるので、**マスク**を着用しておく心安いでしょう。資機材はシステムバケツに入れます。普通のバケツには、作業時に自皿を入れておくので、水を3分の1ほど入れておきます。また、最初に表示板を入口に立てることを忘れないようにしましょう。

	
バケツ 1つ	マスク 1枚

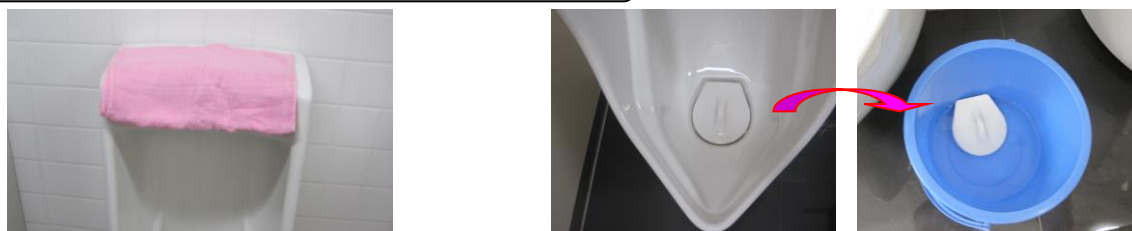
(4) さぎょうなが 作業の流れ

手順①：資機材準備



汚水を吸い込まないように、マスクで鼻と口をしっかりと覆いましょう。ゴム手袋は、裾を折り返さなくてよいですが、必要に応じて折り返しても構いません。システムバケツに必要な資機材を整理して入れ、普通のバケツには水を3分の1入れておきます。白タオルとピンクタオルはあらかじめ、固く絞っておきましょう。

手順②：洗浄の準備



まず、センサーが反応して水が流れないように、ピンクタオルでセンサーに目隠しをします。次に目皿を、水を入れたバケツに移します。目皿は陶器でできているものもあります。陶器でできているものは落とすと割れてしまいますので、落とさないように両手で持って、慎重にバケツに移す習慣を付けておきましょう。

手順③：洗浄

白パッドで洗う



次に白パッドで便器を洗っていきます。床にこぼさないように、便器の上で、白パッドにトイレ用洗剤を掛けます。洗剤をなじませたら、便器の外側を上面から、上から下に洗っていきます。このとき、センサーがある面は洗浄しません。便器の一番下までしっかりと洗い、外側をまんべんなく洗ったら、再度洗剤を便器の上で白パッドに掛け、便器の内側を洗います。水が出てくる部分は水垢が付きやすいので、しっかりこすります。内側も上から下にまんべんなく洗ったら、最後に排水口を洗います。

万が一、便器の中を拭いているときにセンサーが反応して水が流れてしまったときには、水の流れに逆らって下から上に拭いてしまうと、水が大きくはねて自分にかかってしまうので、水の流れに逆らわないようにするか、作業を止めて、水の流れが止まるのを待ちましょう。

排水口、目皿

次にシューズブラシを使って、排水口の中を洗います。目皿は手に持って、水の入ったバケツの上で、白パッドで洗います。裏も表もきれいに汚れを落としたり元の位置に戻します。



便器の水拭き



洗い終わったら、センサーに掛けてあったピンクタオルを外し、水を一度流します。このとき便器の上面をピンクタオルで拭き、その後、今度は青タオルをセンサーにかけます。センサーから外したピンクのタオルで、洗剤を拭き取るように便器の外側全体を上から下へ拭いていきます。便器の下側まで隙間なく丁寧に拭き上げましょう。便器の内側は拭きません。

便器のから拭き



水拭きが終わったら、青タオルで便器のセンサー部分や上面を拭いた後、白タオルでセンサーを隠し、外側を上から下へ、から拭きします。便器の内側は拭きません。てすりの付いている小便器は、ここでてすりも拭いてしまいます。

手順④：拭き上げ、点検

最後に床にこぼれた水滴などを白タオルで拭き上げ、点検をします。便器にも水滴や汚れが残っていないか確認し、残っていたら拭き取りましょう。

手順⑤：報告

全ての工程が終了したら、システムバケツに使用したタオルや洗剤をきれいにしまい、手袋を外し、資機材置き場に戻します。最後に作業表示板を片付けて、姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

複数の小便器清掃

複数の小便器が並んでいる場合、いくつかをまとめて「洗浄」「水拭き」等と進めていくと効率良く作業ができます。ただし、お客様が利用できるように、一つは必ず使用できる状態にしておきましょう。